



出会い

第六十五号平成三十年一月

健康道場サラ・シャンティ
神戸市灘区八幡町
3-6-19 クレール六甲 2F
T/F: 078-802-5120

宗教不要の時代 八百万の神々

祈りの国 日本復活

清水正博

サラ・シャンティで矢作先生、保江先生のような科学者が語る「神仏や魂」についての講座を開催できるようになり、科学と宗教が統合する時代が来た事を実感しています。若い頃から無神論者で無宗教の私が、なぜ数々の奇跡を体験し、現在の仕事に導かれたのか考えてみますと、それは戦争や差別を繰り返す宗教対立にウンザリし、そんな宗教に対し疑問を抱いてきたからだと思えます。そして自然の中のものから八百万の神々として神人一体の文化を育んできた日本への期待を感じるのです。

八百万の神々の国「意識が復活する象徴的な幕開けとして、戦死者の慰霊と災害復興に心を寄せ、日本の精神文化の復活へと導かれた第百二十五代平成天皇の時代の幕が閉じ、その大いなる志を引き継がれる皇太子徳仁親王陛下の時代がきます。新しい元号の年へと準備が整えられる今年は、新時代への変化が生まれる大切な年になります。徳仁親王陛下の祈る力がスゴイ事、記憶

力は天才というレベルを超えていると聞いていますので、私たち庶民も一緒に祈りの力を高めて行く流れが生まれたらよいと思います。

そんな大切な時期に保江邦夫先生と矢作直樹先生の連続講座を開講できることは大変意義深いことだと思っています。

ご存知の通り矢作先生には『天は死なない』『天皇』『天皇の国 譲位に思う』などの著書があり、皇室の歴史的存在の意義を深く考察されています。保江先生は歴代の天皇に受け継がれてきた伯家神道のハフリ神事の後継者になつておられ、皇室をお守りするお役目を受け継がれておられます。こうした歴史的に大変意義深いお役目を演じておられるお2人の連続講座を同時に開講することになったのですから、しっかりと企画・運営せねばと緊張している次第です。

保江先生と矢作先生は2年前7月の参議院選挙に「日本のこころを大切にする党」から立候補された時、その3カ月前の4月に保江先生に来ていただき、立候補されるお気持ちをお話し頂きました。お2人の当選は叶いませんでしたが、矢作先生に選挙直後の8月と翌年1月の新春の集いに来て頂きました。そして2月から保江先生の9回連続講座が始まりました。さらに昨年の衆議院選挙では赤尾由美さんが「日本のこころ」から立候補され、お2人は街頭に出て応援されました。なぜお2人が「日本のこころ」を支援されるのか、世間理解されています。こうした現状をしっかりと考



える講座になればと思っています。

都知事になった小池百合子の力で民進党が分裂し、「希望の党」が生まれたのも新しい変化の兆しかなと思えました。反米と反原発、世界で遅れを取っているクリーンエネルギー脱炭素革命推進の政党が誕生すると期待したのですが、マスコミが保守政党が2つになるのは問題」と云ってつぶされ、リベラルの立憲民主党に票が行きました。誤った自由主義思想を戦後教育で植えつけられた私は、田中英道著「西洋の思想をありがたがるな！日本人にリベラリズムは必要ない。」を読んで、日本のこころに期待するようになりました。

世界最高水準の芸術や建築、工芸、食文化を発展させてきた日本の精神文化をつぶさうと、アメリカはGHQの占領政策で日本神話や古神道、天皇制などを教育から消し去り、映画・スポーツ・セックスの3S政策など間違った物質的価値観の洗脳で、評論家大宅壮一が言ったとおり一億総白痴化が進みました。恥ずかしながら、子供の頃に母が教育勅語や観音経を唱えるのをバカにしていた。戦前は「三種の神器」だけで一冊の教科だったそう、母もどれほど深く神話を学んでいたことでしょうか。なんと羨ましい環境だったのかと思ってしまうが、60歳を過ぎてやっと古事記を読んだ私には、知らなかつた神々の名前になじめず、覚えるのに苦労しています。

1970年にキューバへ50人の部隊を結成してサトウキビ刈り支援で行った時に、農場での初日の連帯集会で日の丸を掲げるのに反対する人が

現れました。せつかく高いお金を払って到着したばかりなのに、日の丸を掲げるなら帰国すると言いだしたのです。僕は部隊のリーダーでしたので、本人の帰国を留めることができず大変悲しい思いを味わいました。祖国か死かをスローガンにする愛国心の高いキューバの人たちにとっては理解できない行動だったと思います。

私の子供の頃は、祝祭日に旗竿に日の丸をかかげたり、通った小・中学校では「国歌斉唱」「国旗掲揚」をしていましたから、他の学校ではそうでなかったと聞いて驚きました。ですから、キューバの3カ月の滞在期間、せつかく一体感があつた仲間と日の丸のことで対立意識が生まれ、帰国後も嫌な思いが残つたのはバカバカしく残念なことでした。でも、この衝撃的な事件のおかげで、わたしは今カタカムナや縄文文明を学ぶことに情熱を燃やしているのかもしれない。天皇陛下の退位と皇太子さまが即位される5月連休の10日間は日本だけではなく、世界中で日の丸を飾りたいですね。

日本文化や日本語の特異性から、日本文化の根つきを探そうと情熱をかけている人にはカタカムナに興味を抱く人が多く、サラ・シャンティがそんな方々の出会いの場になったのは嬉しいことです。八百万の神々と科学が統合する文化の国であることに情熱を掛けて研究される先生方をお招きして来た訳ですが、この2年間に来て頂いた先生のお名前を列記いたしますと、(敬称略)

越智啓子、吉野信子、宮崎貞行、大江幸久、保江邦夫、矢作直樹、平津豊、東義照、北一策、大下伸悦、ハリー山科、武部正俊、池田整治、

アマノコトネ、松野哲也、中健次郎、佐藤敏夫、津村和泉、上森三郎、中山康直、市川加代子、土居正明、奈良裕之、宮島望、甲田烈、神尾学、宮澤気豊、半田広宣、野坂礼子

昨年に高天原神界の働きがさらに強まった気がしたのは、保江先生の9回連続講座が始まったおかげです。科学と宗教を統合するお役目を演じられる保江先生は、東北大学天文学部に入学し、京大の湯川秀樹先生の最後の弟子になれたのも、量子論の保江方程式を発見できたのも運命によって導かれたと若いころからの不思議体験の数々を何冊もの著書で面白可笑しく書かれています。まだ保江先生をご存知ない方は是非お読みください。

湯川秀樹先生の研究を引き継いだ保江先生は、その神と人間の

世界の事を、素領域理論として科学的に解説され、最近出版さ

れた著書「神様の覗き穴」で「ビールがああ世、泡がこの世」と分かり易く説明されています。その素領域理論を説明されるのにピッタリなのが「フランスの至宝」と云われる松井守男画伯の絵だそう。先生の名著「神の物理学」では沢山掲載されています。

その松井画伯を保江先生に紹介したのが20年来の友人である坂和伸一さんで、カタカムナの潜在物理学や言霊の研究をしている人なのです。また現在画伯が絵を描いておられるアトリエの所在地が保江先生とご縁のあるエスタニスラウ神父がおられた五島列島の久賀島だとはビックリしてしま



います。

その「神の物理学」

21章で書かれている

愛や祈りによる治癒

の「メカニズム」は一番

知っておきたい身体



の自然治癒力を引き出す秘法なのですが、保江先生が聖地ルルドへ行つてガンを自然治癒され、その奥義を書かれたのです。私が定年退職する3か月前に妻は甲状腺ガンを宣告されたのですが、それも何か仕組みまれたような体験でした。

妻は全然心配するようすも見せず、3大療法もせず、自分で自然治癒を学ぶ生活に中心軸を移しました。私はちょうど定年前でしたので長期休暇があり、それを利用して気功の中健次郎先生の案内でサイババのところへ行ったり、有機農業と医療の進んだキューバに行ったりする間に、ガンの影は薄くなり自然消滅していきました。おかげでガンの自然治癒法の本を書かれている松野哲也先生やガンサイババーホルムラソンを展開する杉浦貴之さんの講座も開催してきました。

ハリー山科さんも、若い頃からシンガーソングライターで活躍されてきた方ですが、UFOや縄文古代文明、宇宙哲学、膜宇宙療法などの大変ユニークな研究をされて、ネット上で数多くの映像を無料で公開されている不思議な方ですが、昨年はわざわざ東京から音響設備と映像機材を持って、音響専門家と一緒に神戸まで来られ、内容の深い面白い企画をされました。宿泊費、交通費など経

費を入れるとまったく赤字になるのに続けられるのは、何か使命を抱いてお役目を演じるという高い意識を持っておられるからだと思います。

そのハリーさんが9月にゲストに招いた清水浦安さんは30年近く吉田松陰、中村天風、倭姫と指導霊が変わり、教えを受けてきた不思議な活動をされる方です。宅配ピザやホカ弁の全国チェーンを展開して多額の借金があったのを、中村天風の霊の指導で返済し、ベートーベンの第九に代わる交響曲を作れと指令を受け、作曲家や作詞家が自然に集まってワンドロップ聖歌隊を結成し、2006席もある埼玉文化センターでコンサートをやりと会場まで指定され、総経費700万円もかけて実行させられたのです。これはご先祖様の魂が本気で日本を復活させようと天上界から人を動かしている分かりやすい例だと思います。

天上界というのは高い遠いところではなく、私たちのスグ身近なところにあるそうです。地球上すべてのご先祖様を代表してキリスト、倭姫、空海などが、役に立ちそうな人を見つけ出し、監視され指導され、云われたとおり動かされるといった不思議なことが起こっています。日本は古代からそんな神様の御指導があったから、縄文1万年、皇紀2650年も砂漠化せず文明を築いてきたのでしょね。

2回もゲストでお招きした上森三郎さんは、テラファイブという不思議なゼロ磁場が発生する器具を発明し、それが仕組まれたように良く売れ、お金が入ったら、空海様が指導霊になって現れ、

兵庫県と岡山県の県境の神河町でキリストや卑弥呼、マリア、モーゼの墓を探すように命ぜられ、イワクラ研究家の武部正俊さんも現れて一緒に多くの遺跡を発見されたのです。必要な時に寄付金が集まり、商品が売れ、人も集まって来て遺跡の探索と研究に集中できて、本も5冊出版されています。昨年の11月には神河町を世界の聖地にすると言つて、神河町の町長選挙に立候補されたのです。

私の事ですが、40歳の頃左手人さし指の爪の下からカッターで切断したことがあり、丁度、氣功をならつていたので、氣の力を信じて指を再生させたことがあります。それ以来様々な病気やケガは氣の力で自然治癒させる自信が生まれましました。最近ビワの木から落ちて意識不明になって救急病院に運ばれましたが、友人の指導による妻の迅速な手当があったのと、氣の力を自然に使う習慣があったから大事に至らなかったのだと思いますが、周りの人に大変ご心配を掛けてしまいました。

若い時から氣功やヨガ、大東流合氣柔術に取り組み、宮本武蔵に勝つたと云われる夢想権ノ助が編みだした神道夢想杖流杖道に出会い、おかげで修験道や回峰行、お遍路などにも関心をもつたおかげで、真言を唱えながら走ったりして呼吸法と氣の働きについて知り、ナンバ歩きができるようになった。昔の日本人のように楽に走れるようになり、少しのトレーニングで毎年フルのトライアスロンや100キロマラソンが完走できるほど、元気になりました。

陶芸にも打ちこんで自宅に工房を建てるほどに熱中し、定年後には健康法と陶芸を教える道場でも持とうと思っていたら、2年後に阪神大震災が来てしまい、父と私の家が全壊したのです。同時にオウム真理教事件も起こり、ヨガや氣功を教える先生たちが教える場所を失ったのでそんな先生方を支援するための道場を作ろうと、不思議な体験が重なりサラ・シャンティができてしまいました。おかげで会社勤めをしながらですので、借金の返済とビル管理と道場運営と忙しくなり、健康法を教える暇がなくなりました。

サラ・シャンティなんてサンスクリット語の名前をつけたので、ご近所さんに怪しい場所だと変な眼で見られ、今もそう思う人はいます。でも今年で22年もやって来られたのは、ヨガや氣功やスピリチャルが好きなたちに支えられてきたからだと思いますが、不思議な事が大好きなスピリチャルに理解のある人が集る場所になり、そんなひと言では語れない流れを知って欲しいと『走りながら折る』を書きました。

私もバブルを謳歌した世代ですが、崩壊後にお金ばかりを追い求めてゴルフ場やマンションを幾つも買っていて、値下がりして大損した人が沢山いました。そんなお金や物に頼る自己中心的な生き方を反省させられた筈ですが、まだまだ学び足りないようです。金持ち父さん・貧乏父さんという本は、300万部も売れているそうです。自己中心の人生お金がすべてという価値観で、若いうちに株や土地で資産形成してお金を貯め、早く遊んで暮らす生き方がベストだと思わせるバカみたいな

本が売れているのですね。

私は様々な社会活動でお世話係やお手伝いなどをして知らない世界を知る機会をえましたし、家族や地域を大切にす利他のこころで生きる方が、「縁が沢山繋がって楽しいことがたくさんある」と体験した事を自叙伝風に書きました。働くとは傍(他者)を楽にする「いただきます」ありがとう」といった日常使う言葉に教えがあることを実体験したのです。そんな素晴らしい言語のルーツはどこから来たのかと考えていたら、カタカムナとの運命的出会いがあつて人生の転機になり、面白い人たちとどんどん繋がりはじめたのです。

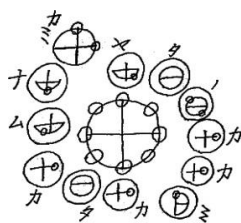
カタカムナは見えない言霊の世界を潜在エネルギーとして説く教えですが、「先祖様を大切にす魂の文化に美意識が芽生えて発展を続ける日本のルーツになります。日本に神社仏閣が多く残っているのは、神々の存在を大切にしてきた習慣が庶民の中にあるからでしょう。古臭く鬱陶しい人間関係を敬遠しますが、生かされている事を知らるためには、あえて挑戦しないとその教えを学べないのです。

私は神道夢想流杖道という古武道の世界に出会つたおかげで、瀧行や大峯山の奥がけや、五十鈴川での禊など修験道、そして摩耶山天上寺の行場で瀧行も指導されることになり、おかげで日本には密教の教えが多く生かされて、型や行の伝統が発展し、その中に生命体である魂の存在が生かされていることを知りました。おかげ様で私たちの国には、神様に生かされている事例が沢山ある

ことに気づいたのです。

芦屋神社に入ると100万円の寄付を刻んだ石柱が沢山並んでいます。摩耶山天上寺は500から1000万円の寄付でいっぱいです。高額を寄付する人には、神様から頂いたお金をお返しするという気持ちがあるからでしょう。これってホント日本的な神意識だと思います。私が勤務していた会社の社長は毎月神社へのおついたち参りをしてから出社されていたので、寄付もされていたと思います。お天道様に感謝して自然を守ることに返しする精神性は縄文以来の伝統ではないか、日常的身近な場所に神様・仏さまを祀つて来た共存の意識が、建築や庭園、芸能、芸術、言葉、食文化などすべてで美意識を発展させたのでしょうか。

歴史の浅い伝統文化のない
英米が縄文以来1万年以上も
繁栄を続けた国の精神文化を
消し去るのは無理でしたが、
日本の不思議な強さの中に
あるカタカムナの潜在エネ
ルギーの存在については気付
いたようです。5年間3クールも続いたサラ・シャ
ンティでのカタカムナ暦の講座は、講師の名前を
出さないように警戒して宣伝もせず開講しました
が、満員御礼だったので。



日本語文化という特殊性のなかにカタカムナがあるという研究がやっとオープンになったのは311以降になってからですが、日本神界の多大な集合無意識の霊団から、佐藤敏夫先生に「神の数学」

が突然降りて来て、それを何年もかけて書きだすと、それは日本古来からある和算、ひふみ九九算の世界の中にある空の原理があらわれたのです。それがネット上で公開されたのを吉野信子先生が見つけ、カタカムナの八鏡文字の構造と原理を解明されました。昨年は檜崎皐月の時代のカタカムナを長年研究してきた方も登場してきて、合気道の氣の世界を説明したり、言霊による健康器具が売られたりしています。歯科医の佐藤青児先生のリンパケアは吉野先生のカタカムナを身体論で分かりやすく説明されています。

縄文時代のことはホツマツタエにより明らかになっていきます。検証ほつまつたえ(ホツマ出版界)によると弥生人(帰化人)が朝廷の中核で権力を握り、国政を根本から変えた。彼らは大陸的価値観で日本統治を進めるためヲシテ文字を全面的に禁じ日本を漢字使用国家に変えたのです。国政の規範となるホツマツタエは彼らの価値観で漢訳と改変が重ねられ、古事記と日本書紀は4世紀余りに後に編纂されたものと書かれています。

311が起こり、古事記編纂1300年、伊勢・出雲の式年遷宮と続き、戦後70年を振り返る時をへて、天皇陛下のお言葉をいただき、讓位、改元へと皇室の行事が続きます。まるで仕組みられたようなこの流れは、日本が復活するためのご先祖の神々の計らいではないでしょうか? 世界最高の文学や芸能、美術、建築、武道、宗教を育て維持してきた日本文化の美意識が世界中に知られるようになり、その美意識を育ててきた日本語に憧れる人たちが増えているようです。

日本語は書くのは難しいけど喋るの簡単だそう
です。母音が明確で聞きとりやすいし、同音異義
の言葉が多く覚えやすい、主語で動詞が変化しな
い、外国語も混ぜて喋れるとかで楽に学べるとか。
ヨハネの福音書にある 初めに言葉があった、言葉
は神であった」の48音はヨハネなのだそうです。
宇宙の響きをそのまま言葉にしたのが元であり、
それが日本語の48音が原型なのです。アイホン
やパソコンには、日本語を瞬時に世界中の言葉に翻
訳する機能があり、世界中のどこでも、日本の
事を学ぶ人が生まれています。

世界中で日本好きの人を探し出し、日本文化を
本格的に学べるようにサポートするテレビ番組も
生まれ、日本の古い伝統文化について日本人以上
に詳しい人たちが現れる時代になりました。そんな
ことから、前世が日本人だったという、魂の働き
の共通認識が世界中で生まれ、交流が始まってい
ます。そんなネット時代になってやっと、サラ・シャ
ンティ(平和の庵)なんて名前を付けた意味が分か
りました、サラは空間、シャンティは平和だと世界
の人に分かりやすい命名だったのです。

世界中の人に日本文化の縄文時代からの歴史
を知ってもらうためには、日本人がホツマツタエや
カタカムナのことを知って、研究が盛んになり、
小・中学校でも教えられるほどに歴史教育が変わ
らねばと思います。そのためにはサラ・シャンティ
のような場所が全国に多く生まれて、ホツマツタ
エやカタカムナの面白い講座をする人が増えて行
くことだと思えます。そんな日本にするために、
今後ともご期待ください。

次に続くのは

- ① 大飯原発のおおい町出身、徳庄博美さん
の麗しの国・若狭より その3-1
今回は小水力発電の見学記
- ② 元自衛官の池田整治さんは2年前に関東
から西宮に移って来られました。草の根で真
実を伝える活動をされています。
最新のメルマガからの転載です。
- ③ 毎年、明石と神戸で福島の子どもを招く
保養キャンプを開いている小野洋さん
から福島での「同窓会」のレポートです。
- ④ 伊勢在住の吉田博明さんからの
伊勢だよりはNo.15です。

麗しの国・若狭より 3-1

小水力発電へ向けて

徳庄 博美

|| 石徹白(イトシロ)小水力発電所見学記 ||

私たち〇〇みらい塾は他の多く
の皆さんとともに再生可能エネル
ギー、小水力発電所設置の目指
した取り組みをすすめています。

今年には福井県の一市町一エネの
企画に応募して認定を得るところまできました。
大きな一歩を歩むことができました。



そこでこの11月はこの小水力発電に村を挙げて
取り組んでいる岐阜県郡上市石徹白(イトシロ)を
訪問しました。その報告をさせていただきます。

石徹白は白山の山麓にある標高950mの高原
にある集落です。昔から白山信仰のメッカとして
栄え、かつては登り1000人、下り1000人、泊
まり1000人と言われるぐらい白山遙拝者が多
く訪れていたと言います。村には立派な白山神社
がありました。そこには大きな磐座が鎮座して強
い神気を発していました。村は人口262人、世帯
数109名です。

この50年で人口は4分の1にまで減少したと
いう限界集落で、過疎化・高齢化が進んでいます。
しかし小水力発電事業、子育て世代の移住受け入
れ、地元女性有志によるカフェ立ち上げ等が進み、
地域住民が主体となったこれらの地域づくりの取
り組みは農林水省より表彰を受けるなど全国的
に注目をあつめています。

驚いたのは過疎化の流れの中で、08年以降、子
育て世代のイターン、Uターンが増加し13世帯3
2人が増えていると言ったことでした。なぜ若者世
代が増えているかというと、高原の自然の魅力と
一人一人の村人が自給自足に近い生活の中で身に
つけてきた生活の技が若者を引きつけているのだ
という話でした。一人一人の村人が集落再生の地
域資源になっていると言ったことに大きなヒントを
もらいました。

石徹白は本当に水の豊かな集落でした。用水路
には豊かな水が勢よく流れていました。この地
域は白山信仰の流れもあって村人の村を誇りに思
い、力を合わせて村をより立てていこうという思い
が強かったようです。明治の時代には焼き畑以外

に農業が出来なかつた土地に人力だけで用水路を切り開き、稲作ができる土地に切り開いていったと言ふことです。

そしてその用水路を活用して実験的な小規模の小水力発電所を3ヶ作っていったそうです。そして2016年に本格的な石徹白番場(イトシロバンバ)清流発電所、125KWを作ったということです。年間発電電力量610MWhで一般家庭約130世帯分の電力を供給できると言ふことでした。総事業費は2億3千万円(内県、市補助75%)ということでした。

事業主体としては新たに発電所設置のための農業協同組合を立ち上げ、集落のほぼ全戸から1万円の出資をしてもらい、村の発電所として設置したと言ふことです。売電収益は年約2000万円前後で、そのうち借金の返済・利払いを除いてのこり数百万円を集落の地域振興に生かしていると言ふことでした。とくに今力を入れてるのは耕作放棄地の再活用ということでした。この発電所がうまくいっているのは村人全体の総意で設置出来たことだと思ひました。と同時に先頭になって道を切り開いた数人の志と尽力も大きかつたと思ひます。

若狭の原子力発電所についても大きな変化が生まれています。高浜3・4号炉が再稼働され、大飯3・4号炉も関電は再稼働を目指して動いています。しかし政府は敦賀半島にある高速増殖炉もんじゅの廃炉を決定せざるを得ませんでした。そしてこの12月6日原子力開発機構は廃止措置計画の認

可を原子力規制委員会に申請しました。47年に廃炉を完了する予定です。これから廃炉作業が本格化します。結局、使つた以上の燃料を生みだす夢の原子炉」と政府が宣伝していた高速増殖炉もんじゅは1995年のナトリウム漏れ事故から始まり、相次ぐトラブル、データ隠しの末、無責任の烙印をおされ、1兆円以上の国税を投じながら250日の運転だけで幕を下ろすことになつたのです。

これにより原子力発電によって生みだされる使用済み核燃料は再利用していくから大丈夫であると政府が言つていた核燃料サイクルは完全に破綻しました。六力所村の再処理工場も稼働できる状態ではありません。さらにもんじゅに代わつて使用済み燃料を混ぜて作ったMOX燃料を使うプルサーマル計画も危険性が高く、さらに運転費も高かついて採算がとれる見通しが立っていません。

結局使用済み核燃料はどこにも持つて行くことが出来ません。この使用済み核燃料は放射線が強く10万年間管理・保管し続けなければならぬという代物なのです。10万年を過去に遡つて想像すれば縄文までをさらに10倍した太古です。縄文からさえこの日本列島は火山活動や地震を伴つて地形が大きく変動しています。安全に貯蔵できる場所など日本列島のどこにも存在しません。とても正気の沙汰とは思えません。

原子力発電所を運転し続ければ使用済み核燃料がますますたまり続け矛盾が年々深刻になっていきます。すでにほとんどの原発で使用済み核燃料の貯蔵可能容量は残り30%を切っています。

政府はこのことに目を閉ざしつづけ、さらに福島原発爆発事故を引き起こし、大地を汚染し、ごももの甲状腺癌を生み出し、未だ帰宅できない多くの人が苦しんでいるにも関わらず、そのことを忘れ再稼働に突き進んでいます。しかし壁に突き当たるとは必定です。

又新聞報道によると関西電力は、2019年に40年の運転期限を迎える大飯原子力発電所1、2号機(福井県おおい町)を廃炉にする方針を固めたようです。東電の福島第1原発事故で国の安全基準が厳格化されてから、各電力会社で、運転期限を迎えた、発電能力が小規模な原発の廃炉が決まっています。しかし大飯1、2号機は100万キロワットを超える大きな発電規模で効率がよいとされています。

関西電力は、運転原則40年とした新規制基準にあらがつて、今まで1・2号炉の再稼働を規制委員会に強力に働きかけていました。すでに高浜原発1・2号炉について規制委員会は自らが定めた運転原則40年とした新規制基準をいとも簡単に反故にして再稼働を認可しています。

しかし、大飯については補強や耐震化のコストが膨らみ、運転期間を延長しても採算がとれないと関電は見たようです。また今年より始まつた電力自由化で関西電力は顧客が新電力に奪われたり、省エネの普及で電力需要が26%減少したという報道もなされています。このことも影響して、無理して1、2号機を再稼働しても経営を圧迫するという判断になつたと思ひます。

関西電力もこのことに関して賢明な判断だったと思います。しゃにむになっての原発再稼働推進には先がないという判断が生まれたのではないかと考えます。原子力発電所は今後経営的にも採算がとれないことが明らかになっています。すでにアメリカでも原子力発電所は経営的に採算がとれないと言つことで撤退が始まっているのです。

表層の再稼働の動きとは逆に歴史の底流は確実に原発からの離脱に向かって流れているのを感じます。再生可能エネルギーの時代が始まっています。

未来は自分の心の中に...

驚いた！この期に及んでの
世耕経済産業大臣の発言に...

「いろんな費用を全部、
含めたとしても発電単位
あたりのコストは原発が
一番、安いと考えている」...

形あるものは壊れる。

強烈な人工放射能にさらされる原発は、
通常40年で廃棄しなければならぬ。
その費用は20兆円と今のところ試算されている。
しかし、その方法は未だ確定されていない。

それに各炉一万吨を超える使用済み核燃料や
廃棄原子炉等は24万年以上安全に保管しなければ

ばならない。それらの経費も含めて、どれだけお金を食うか未恐ろしい。

しかもフクシマには、メルトダウンした836tの手つかずの使用済み核燃料がある。ただ水で冷やすすしかなく、大量の放射能汚染水蒸気と水が地球を今現在も汚染している。

広島原爆は僅か700gのウラン235の爆発だ。836tの処理不能の核汚染物質の処理費はいつたいいくらになるのか。

それよりも、日本人のDNAが放射能等で傷つき、未来の子供たちが消える前にキチンと処理できるのか、いや処理する意思があるのか...

一方、燃料棒も高騰し、今や一体10億円を超える。かつての2億円の5倍。原子炉1基あたり年500体は使う。少なくとも年5000億円の燃料費だ。

これが、自然エネルギーだと、施設費だけで済む。しかも使用済み後の環境汚染はない。さらに、「デイスクロージャー」で明らかになったように宇宙どこでも空間からエネルギーを取り出す弁当箱大の「装置」を人類は既に手にしている。

施設費もいらぬ。まさにフリー、永久にタダだ。全ての人が豊かに生きることが出来る。

国のリーダーたちの仕事は、国民の安全と幸福の追求だとすれば、どのエネルギー社会にするかが最大の課題のはずだ。

しかも既に答えはある。だのに、ひたすらその「真実」を隠し、一部のモノの豊かさや幸せのため

の歪んだ社会に陥っている。

先週は、五井野博士の拠点に行き、さらに小淵沢で先覚者たちと会った。

その天界に帰った博士たちの嘆きの声が伝わってきた。あ、のどうしようもない人間たちをどうしたらいいのだろう...」

今日は、皇居奉仕団で団長をしていたとき、副団長としてお世話になった東京の知人が訪ねてきた。わざわざ六甲山の磐座セミナーに来たとのこと。講師は、なんと私に六甲比命大善神社で瀬織津姫や磐座の意義を教えて下さった大江先生である。まさに、多生のご縁で、人生はいろいろつながる。

セミナーの前に、廣田神社と越木岩神社を案内して、最後は妻のランチでおもてなし。廣田神社も毎日の散歩は夕暮れだが、今回は昼前だ。いつも歩いている境内の中で、春のような花を見つけた。紅葉も太陽の陽ざしで輝き、生命感溢れている。人が気づかなくても、緑は育ち花は咲いている。思わず携帯写メで撮るとささやかれた...

私たちは、いつもここにいます。

でも、いつまで咲き続けるかは、あなたの方ヒトの心次第です」

そうだよなあ...未来の地球は、自分の心の中にあるんだよ...

1月18日 1月西宮勉強会(18回)

<http://ikedaseiji.info/2018/01/post-577.htm>

福島の子どもを招きたい！

(たこ焼きキャンプ) 明石プロジェクト

現地へ、そして声を聴くところから

小野 洋

2011年の4月から5月、原発震災後、やむにやまれぬ想いで、いったい何をしたらいいのかわからないまま、福島県会津若松市の避難所へ向かいました。その際、現地のNPOの代表の方から、関西で保養キャンプをやってくれる人はいないかと問われたのが、私にとつて、たこ焼きキャンプを始め直接のきっかけの一つでした。

以来7回、約2週間のキャンプを行い、毎回20数名の子どもたちと明石、神戸、姫路で楽しく夏を過ごしてきました。最初の年のキャンプ後、もう一度、キャンプのスタッフや参加した親子と会いたいという何人かの親御さんの声をきっかけに、福島県内での冬の再会行事「同窓会」が始まり、つい先日、その7回目が行われました。少しずつ変わり、また基本的には何も変わらない福島島の現状を、福島との交流の中で感じてきました。

他方、被害が深刻だった浜通りのことも知りたいたいと思いつきました。1昨年、いわきで様々な市民活動に携わりつつ、300年の歴史を持つ温泉旅館を営む里見喜生さんと出会いました。里見さんの案内による被災地スタディツアーに参加したり、お招きしての講演会を行ったりしてきました。今年、2017年の10月には、キャンプを毎年手伝ってくださるボランティアさんたち何人かを交

えて、福島スタディツアーを企画しました。キャンプを熱心に支えてくださる方にも、現地に行き、何かを感じてほしいと思つてのことでした。

2日間という駆け足の行程でした。1日目は里見さんの案内で浜通りの広野町、楢葉町、富岡町などを回り、夜はたこ焼きキャンプの親子と里見さんの「古滝屋」で交流。2日目はいわき市の魚市場を見学後、中通りのカフェで昼食、午後は昨年6月に避難指示が解除された葛尾村を訪ねました。

1昨年は津波の被害を受けた家がそのまま放置されていた富岡町でも、避難指示解除を受けて常磐線の駅が建て直され、駅前にきれいな住宅やホテルが建っていて驚きました。シヨッピングモールも建築中でした。しかし、富岡駅のすぐ近くには巨大な廃棄物処理場(低線量の放射性廃棄物の減容化施設)が稼働し、汚染された土や草などが詰め込まれたフレコンバツクの巨大な山がある光景は2年前と変わりませんでした。里見さんによれば、避難解除になつても帰還したのは住民のうちわずか①パーセント、住んでいるのは高齢者世帯と作業員がほとんどで、子どもは1人も帰つていないとのことでした。箱物だけを整備して復興が進んでいる」とされている中での現実です。

キャンプに参加した親子との交流会では、いわき市に住む3家族が来てくれました。小学校低学年だった子が中学生になり、成長している姿に感激しました。洗濯など子どもたちのお世話に尽力してくださっているボランティアさんたちも、初めて会う親の話に熱心に耳を傾けていました。

小名浜の漁港の市場「ら・ら・ミュウ」では、たかさんの店が営業し、客も多く活気を取り戻していました。その2階にある震災記念ミュージアムも見学しました。津波の映像や避難所を再現した展示などを見て当時のことに想いを馳せましたが、展示された子どもたちのイラスト入りの宣言文の中に「放射能に負けないでがんばる」といった内容が多く書かれていて、理不尽に子どもにも負担を押し付けている大人の責任を感じ、複雑な気持ちになりました。

その後、中通り三春町にあるカフェ「えすぺり」で昼食。このカフェには野菜やパンなどの加工品の販売ブースもあり、元々地元で有機農業を営んでいた方が、震災後、放射能を測定して数値を公開した上、それを了解してくれる方に販売するという形で営業しています。とてもすてきな店でランチもおいしくいただきました。(12月の同窓会の後にも立ち寄り、その時には「えすぺり」を立ち上げた大河原さんのお話をうかがうことができました。

子供たちに安全なものを食べてほしいと願い、苦勞して有機農業に取り組んできたのに、被災し絶望したこと。その後農業の再開が可能であることがわかり、県のものより低い検出下限で放射性セシウムの数値を測り、多くが不検出または低い数値ではあるものの、本当は完全に安全な野菜を作りたいたいという思いと生活していかなければならない現実との間で苦悩していることなど、つらい思いを直接うかがうことができ、改めて原発事故の被害のむごさを感じさせられました。(

葛尾村では、避難先の仮設住宅で自治会長を務め、今は村議となっているMさんのご自宅に伺いました。行く道々はなんとも風光明媚な山村の風景で、稲刈りのシーズン、たわわに実った田んぼもありましたが、そのすぐ横に汚染土の入ったフレコンバッグが積まれている光景があり、衝撃を受けました。

葛尾村には1600人が住んでいましたが、戻ってきたのはごくわずか。子どもがいる世帯は一つもないとのことでした。Mさんの自宅は昔ながらの大きな農家の家を震災前に改修したもので、震災前は四世代で住んでいたそうです。Mさんの母親は現在介護施設に入所、息子さん夫婦とお孫さんは今も避難先から戻らず、奥さんは孫の世話のために息子さんの家の近くに住んでいるとのこと。このように、福島では3世代・4世代が同居して大家族で住んでいる家が多いのに、それがバラバラにされる、ということも原発事故の大きな被害の一つです。

村に1人戻ったMさんは少しでも村の未来にかなげたいと、田んぼの他に特産物につながるよう果樹を植えているとのこと。村議に立候補したのも、誰もなり手がいないから、という理由でした。村には復興予算がつぎ込まれ、大きな農産物の倉庫が建ち、学校の体育館が新設されたが、農業の再開そのものが難しく、子どもが帰っていない状況の中で、箱物ではなく、人が集まるようなコミュニティ作りを考えないと、とおっしゃっていました。来春には避難先から18名の小中学生（もともと200名の小中学生がいた）が村の学校にスク

ールバスで通うことになるので、小中一貫校にして、そこに高齢者の集まるスペースを作るなどの提案をしているそうです。

初対面の私たちを温かく迎えてくださったMさんは、人懐っこく、しかし時々厳しいまなざしでものを語る聡明な方でした。大丈夫と言いつながらも放射能のこともよくわかっていて、様々な考えや行動がある村の現実を受け止めながら村の復興を模索しているのを感じました。

お暇を告げた際、なんだよ、もう帰んのか？泊まっていけばいいのに」と言っていたMさん。時折お孫さんたちが訪ねてくるのを楽しみにしているものの、隣近所もほとんど人が居ない大きな家に1人住んでいるのはやはり寂しいよう」とも。そのMさん、子どもが帰らない村で孫とも思うように会えない方に、福島市の街地の子どもが参加者のほとんどであるたこ焼きキャンプのリーフレットを遠慮しながら渡したところ、子どもたちが楽しくうに写っている写真を見ながら、

「いなあ、こういうのが一番だよ。なによりも子どもたちが元気になることが」とニコニコしていたことに、驚きを感じたとともに、保養キャンプのもう一つの意味を発見した思いがしました。これから生きていく子どもたちに最高のことをしてくれているよ」と。

Mさんの家の庭には美しい花がたくさん咲いていました。

ツアーに参加した一人のボランティアさんが、別れ際、なんで小野さんたちが保養キャンプを

ずっと続けなければいけないと言っているか、今回参加してよくわかった」と言ってくれました。原発事故が引き起こすものは、放射能の直接の被害にとどまらない。目に見えない、いつ影響が出るかわからないがゆえの「原子力災害」…避難自体が引き起こす問題、第一次産業への深刻な影響、地域や家族の分断、子育てをする親の不安から来るストレス、被災者への差別など、多種多様な被災なのだ、ということを経験したツアーでも実感しました。

そうした原子力災害の中で、子どもの身体への直接の効果は簡単に測れないけれど、子どもが他県で温かく受け入れられ元気を取り戻して帰ってくることで、被災地の親や住む人々への大きなメッセージなのだ、はつきり自覚できたツアーでした。



※ツアーの様子は、たこ焼きキャンプブログ <http://takocamp.exblog.jp/> に掲載されています。

伊勢便り No.15

吉田 博晴

哲学者 梅原猛氏は、熊野古道伊勢路は、農耕の神・弥生の神を祀る伊勢神宮から、縄文時代の伝統が息づく、狩猟採取の神を祀る熊野への道である。」と述べました。私自身、日頃、伊勢神宮の年間祭事や風土に触れ、伊勢から熊野を

訪れるたびに、この指摘は実感として受け止めてきました。

初代紀州藩主 徳川頼宣によって、補修・整備された伊勢路は、伊勢(玉城)から熊野速玉大社までの全長110kmの参詣道です。起伏に富んだ12か所の峠越えが続く途上には、山・川・海が織りなす眼を見張るような景観が展開しています。

三重県は、日本の神社100選の中で、都道府県別では、最多の37社が登録されていますが、ほとんどが、伊勢路の途上に創建されているなど、神話や古代の面影を色濃く残した史跡・古刹が存在しています。

1963年、中部電力が、熊野灘沿いの伊勢路にある芦浜(古和浦)、大白浜(海山)、井内浦(磯崎)で原子力発電所建設計画を発表しました。いずれも、17年から37年間にわたった反対闘争の末、2001年までに阻止されました。当時、漁業の不振にあえぎながらも、住民の根強いパワーで原発を阻止した、この快挙は日本のエネルギー政策を原発からの脱出「から」再生エネルギー化推進「へと」、方向転換を促しました。

伊勢路で、私の印象に強く残っているのは次の所です。

1 宮川と大内山川の合流地 瀧原に 瀧原宮が建立されています。天照大御神の御杖代「(みつえしろ)倭姫やまとひめ)が天照大御神の啓示によって、創建されたと言われています。

伊勢神宮(内宮)以前に建立された 瀧原宮」は、杉の原木が並ぶ長い参道、清らかな谷が流れる御手洗場などの景観が、伊勢神宮(宮)ときわめて似ていることから、内宮の遥宮(とおのみや)と呼ばれ、パワースポットとして知られています。

2 榑ヶ崎は、初代天皇として即位した神武天皇が日向(九州)から船軍を率いて、瀬戸内海を経て、最初に上陸した所と伝えられています。上陸後、大台ヶ原を経て、大和までの進軍では、案内役として熊野三山のシンボル 八咫鳥が差し遣わされたそうです。

3 波多須は徐福が秦の始皇帝の



命を受け大船団を組み、不老不死の霊薬を求めて、蓬萊山を目指したとき、最初に上陸した渡来地だったそうです。小さな鳥居と祠がある徐福の宮」が建てられていて、徐福が持参した中国の硬貨(半両銭)と「神体のすり鉢が祀られています。

4 七里御浜に面した熊野市有馬町にあるイザナミノミコトを祀る 花の窟屋神社」は磐座「神体とした日本最古の神社です。

巨岩の向こう側が黄泉(よみ)の国と現実の国との境界となつていてと考えられ、よみがえりとは黄泉の国から戻ってくることを意味していたそうです。

5 小栗須(熊野市)は熊野比丘尼慶光院清順

上人の出身地で顕彰碑が建てられています。熊野信仰」を解説した曼荼羅絵図をかかえて、全国各地で布教活動をしました。戦国時代に一時、伊勢神宮の式年遷宮が途絶えた時、淨財を集め、復活に貢献しました。

6 熊野市の大泊地区などには、修行僧や貧しい巡礼者を、一般家庭が無償で世話をした善根宿」がありました。巡礼者は御礼に神社へ参拝した際の納札を渡すことが習慣となつていて、善根宿」側では、納札が多いほど「利益を得られると思われていたそうです。

熊野に参るには
紀伊路と伊勢路
どれ遠し どれ近し
廣大慈悲の道ならば
いずれの道も遠からず

平安時代の後半(1180年)、後白河法皇によつて、編纂された歌謡集 梁塵秘抄」(りょうじんひしょう)に収められている今様(流行歌)です。第7代の天皇だった後白河法皇は、天皇を退位した後、35年間の院政中、熊野詣」を、歴代法皇の中では最多となる34回行なった 熊野信仰」の信奉者でした。熊野詣」とは、当時、京都御所から往復30日間かかる紀伊路(和歌山県)をたどつた熊野三山」への巡礼の旅のことです。

熊野三山」とは、自然崇拜の対象である神々が仏教の仏や菩薩として、仮の姿を現したとする神仏習合の象徴としての来世を救済する 熊野本

宮大社」(祭神スサノオノミコトと阿弥陀如来)過去世を救済する 熊野速玉大社」(祭神イザナギノミコトと薬師如来)現世を救済する 熊野那智大社」(祭神イザナミノミコトと千手観音)三社の総称です。

「熊野信仰」とは、神や仏をあがめ、曼荼羅絵図で表現された宇宙の真理や人間の心相を組み合わせた世界観、輪廻転生を繰り返す人生観・死生観などの教示を信奉することです。 「熊野信仰」は平安時代、貴族や武士間の権力闘争で混迷を深めた世相を反映し、末法思想が渦巻く中、平和を願う貴族階級の関心を集めたことで広がり、転機となったそうです。特に、熊野在住の僧侶・山伏・比丘尼(尼僧)・御師・先達などの布教活動が全国的な広がりへの後押しをしたと伝えられています。

鎌倉時代に入ると、踊念仏で知られた時宗(仏教)の開祖 一遍上人が「熊野三山」で30日間の修業をした際、伊勢神宮のように僧侶を遠ざけることなく、高野山や大峯山での女人を拒むこともなく、信仰が異なる人や社会的弱者をすべて受け入れた熊野での寛容さに触れ信・不信を問わず(信仰の有無)浄・不浄を嫌わず(身分格差)賤・貴賤を厭わず(老若男女)と熊野の伝統的精神を表現しました。

「熊野信仰」は、室町時代には武士階級、江戸時代には庶民階級での共感を呼び、蠅の熊野詣」と言われた程、賑わいました。

古来、和歌山県・奈良県・三重県にまたがった紀伊山地には、「熊野三山」のほか、高野山(仏教)、吉野・大峯(修験道)の聖地が、長い時を刻んだ自然と人との営みを通して形成されてきました。また、「熊野三山」へは紀伊路・伊勢路(三重県)のほか、高野山と吉野・大峯の間を結んだ小辺路、大峯奥駈道などの熊野古道が整えられてきました。

2004年7月、この聖域が「紀伊山地の霊場と参詣道」として、ユネスコ世界文化遺産に登録されました。登録されたのは、3か所の霊場に付随した総資産面積500haに及ぶ17か所の神社・古刹・史跡と総延長距離300kmの熊野古道でした。特に、熊野古道は、世界に数多くの巡礼路が存在する中で、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステラ(キリスト教)について、2番目の登録でした。

千の風になって

私のお墓の前で 泣かないでください

そこに私はいません 眠ってなんかいません

千の風に 千の風になって

あの大きな空を 吹きわたっています

秋には光となって 畑にふりそそぐ

冬にはダイヤのように きらめく雪になる

朝は鳥になって あなたを目覚めさせる

夜は星になって あなたを見守る

私は、この詩が、熊野での景観や風習に触れるたびに脳裏に浮かんできます。

原作は英語で日本語訳は新井満氏で、作曲も手がけました。原作詞者は不明ですが、この死生観は、古代ヨーロッパのケルト人、アメリカの先住民、カナダのイヌイット族、オーストラリアのアボリジニなどの風習の中で共有されています。

平和や幸せを願う「熊野信仰」と相通じるところがあるのではないかと感じています。

河合雅司著「未来年表」によると、今から8年後、2025年には、日本の人口は700万人減少、生産年齢人口(15歳〜64歳)は1700万人減少、3人に1人が65歳以上、独り暮らしの社会が本格化し、人類が経験したことのない超高齢化社会を迎えると指摘しました。人口不足、少子高齢化、社会保障費増大、貧富の格差拡大などが、2025年問題として、いよいよ目前に迫ってきました。しかも、世界的にも国家間での平和や安全をゆるがす紛争・対立・分断・地球温暖化・異常気象などが激化してきました。

政府は働き方・学び方・暮らし方・生き方など、抜本的改革を次々と打ち出してきてはいるものの、このまま、まっしぐらに人類衰退への道をたどってしまうのでしょうか。一方、2025年には、プレシジョンユリテック(技術的特異点)を迎え、モバイル通信(スマホ)、インターネット、AI(人工知能)、ロボット、自動運転などの技術が社会的イノベーション(第4次産業革命)を呼び込み、立ちはだかる課題を解決するとの、明るい兆しも視野に入ってきました。

痛みを伴うものの、現状の3K(キタナイ・キツイ・キケン)や事務処理など、全産業の49%に当たる業務から解放され、先端技術では処理できない楽しく好きな仕事へと置き換えられることで、自由で生きがい富んだ社会へと転換できるかどうかは、私たちの対応にかかっているのではないのでしょうか。

2014年3月、伊勢路に沿って、高速道路が伊勢から熊野まで全線開通したことで、熊野は伊勢から2時間足らずの身近なところとなりました。熊野の地名は、辺境を意味する隈(くま)が語源と言われています。また、一隅を照らすとは、他から隅を照らすことではなく、自ら発光体となって周囲を照らすとの自発的な言葉です。

まだ私の空想にすぎませんが、熊野で子供自然塾・異業種交流セミナー・ヒューマンライブラリー・ティアハイムなどを取り込んだ「コミュニティ・カフェ」が実現できればと、考えています。自ら実務に当たることは年齢的に無理なので、できれば、関心のある人たちのコンサルタントとして、起業をサポートできればと思っています。

この拠点を足がかりに、移住者用のサテライトオフィスを支える「シェア・ハウス」、観光客用の「ゲスト・ハウス」の運営へとつなげることで、地域の他の施設との連携を深め、行政の協力を得て、いずれ、「エココミュニティ・タウン」が形成できればと願っています。

続いては

- ① 千葉裕樹さんの「神の数学」参加感想
- ② 八木下美枝さんの「ハリー」と和泉のトーク&ピアノコンサート「精霊の集い」に参加して
- ③ 乗名美佐子さんの津村和泉さんの432Hzの体験談
- ④ 池田峰子さんからは中健次郎先生の

気功講習を受けて

教室めぐりは 月曜朝「自然な姿斉」の

西山路子さん、月曜午後「リラックス気功」の神崎千晴さんが書いてくださいました。

神の数学参加感想

千葉 裕樹

佐藤先生の神の数学の講座に参加させていただいています。回ごとに新しい発見や気づきを与えていただいています。特に印象的な



のは、神の数学が一般でいう数学とは違い、その根底に「直線系」ではなく「循環」がある、ということ。その循環というところが、日本の文化の根底にあり、かつこれはカタカムナという「マワリテメル」との関連も感じさせます。そこに、この世界の根本とつながる何かを感じさせます。

また、11月19日の第4回講座では、佐藤先生にご指名をいただき、実際に前で神の方陣の計算

をさせていただきました。ただ客席に座って講座を聞いているのと、前に立って実際に計算するのは、大きな違いがありました。どんな方法で計算をしていても見事に数がそろっていくことを体験すると、神の方陣が人知を超えた、この世界の真理を表す表現であるということを感じました。百聞は一見に如かず、実際に神の方陣を扱ってみることの重要性を実感しました。

そして第4回講座で印象的だったのは2点あります。

1つ目は123456780...のひふみ九九算表の外に広がる0の群れ。特に九九算表のすぐ外側の0の群れを佐藤先生は「霊四魂」でいう「直霊」と表現されていました。そしてその直霊がさらに外側に広がる無数の0の群れ(「大神たち」との媒介者になつているとも。大神たちの0の群れははるか、はるか広大に無数に広がっており、そこから直霊を通じて九九算表(「現実世界、この世」)を見守っていると。

そう考えると、広大無辺な0の中にかすかに生じているゆらぎが九九算表(「この世」)であり、本来は完全調和の0(「空?」)であるのが実相であるというのが、この九九算表からいえるのではないかと思います。この辺は、保江先生がおっしゃっている「神様ののぞき穴」ともつながっているようにも思います。

2点目は、神の数学を通じて様々な事象を数として説明できるという点です。第四回目講座

では、神の数学を用いて日月神示の文中にある数字の謎の解明をされてきました。また、梅村先生は神の数学で「金剛界曼荼羅」と「胎藏界曼荼羅」について説明してくださいました。

日月神示にある「数をよく極めて下されば判ることぞ、天は二一六、地は一四四ともうしてあるうが：」という一見意味不明の数字が、神の数学で見るとその意味が分かるというのが驚きでもあり感動でもありました。

この言葉は360度という天地円満な相を(216+144)を表しているのもであり、自然の和は360度をもって循環回転していることを告げているのである。

それと同時に、我々も「この世」と「あの世」を輪廻転生という形で巡り、積もった業を払って新しい姿で改めて「この世」に戻ることを開示しているのである。(第四回資料引用)

と第4回講座資料には書かれています。輪廻転生であったり、曼荼羅であったり、それらが数字を用いて一体何なのか、ということの説明できることで、それらへの見方が変わり、かつ世界の精妙さ、見事さを改めて感じます。

以上、神の数学の視点を持つことで、ばらばらに見える事象や概念が、一つにつながっていくという実感が、神の数学を学ぶ面白さにつながっていると思います。まだまだ自分自身わからないことも多いですが、これからも探求を続けることで、

よりよい世界を実現していくためのヒントが得られるのではないかと考えています。

佐藤敏夫先生が世界に提示してくださいました神の数学を、これからも探求してこの世界に生かしていく必要を、学ばせていただいている身として感じています。

ハリーと和泉のトーク& ピアノコンサート/精霊の集い

ハ木下 美枝

9月10日、ハリーと和泉のトーク&コンサート/精霊の集いに参加させて頂きました。

今回は「ラ」の音を432Hzに調律したピアノで、ピアニストの津村和泉さんが演奏してくださいました。ということ、いったいどんな感じなんだろうと楽しみにしていました。ちなみに普通は442Hzに調律されているそうです。

さて当日、津村さんがピアノの前に座って、ハリーさんに「何か音を下さい」とおっしゃった後、それに合わせてつらつらとメロディーを奏で始めると、もうそれだけで美しくこれから非日常の世界へ連れて行ってくれそうな予感……。

すぐ続いてプログラムのベートーベンのソナタ悲愴「第2楽章が始まり、ショパン、ドビュッシーと、馴染みの深い曲が続きましたが、時に力強く、時に繊細な津村さんの演奏にすっかり魅了されてしまいました。そしてなんとも柔らかく優雅な



津村さんの背中や腕の動きから目が離せませんでした。

つづいてのハリー山科さんとのトークでは、津村さんの神童ぶりや、波乱万丈の人生、クラシック界の裏話的なことや、スピリチュアルなお話しまで盛りだくさんな内容で加えてハリーさんのツツコミと、津村さんの天然っぼい(?)受け答えも楽しく聞かせていただきました。

そして後半は、ショパン、リスト、ラフマニノフの有名な曲から、アンコールは庄巻の「ラ・カンパネラ」まで、時間はあっという間に過ぎてしまいました。

舞台「と客席」ではなく、プロのかたの演奏を同じ床の高さで、こんなに近くで聴かせていただけるなんてほんとうに贅沢な体験でした。ちなみに432Hzに調律するのは難しく、どのピアノでもできるわけではないそうで、今回サフ・シヤンテイさんで聴かせていただけてラッキーでした。素敵な演奏はもちろん、すっかりチャームिंगな津村さんの大ファンになってしまいました。

津村和泉さんの432Hzの体験談

赤名 美佐子

実は、ピアノの音色はどちらかと言うと余り好きではありませんでした。バイオリンの音色がどちらかと言うと好きでした。主人が亡くなり生活が一変してからは、ゆっくりと音楽を聴く事も無く、慌ただしい毎日が続いており、音楽会にも行かなくなり、CDすら殆ど聴かなくなっていました。

そんな中、サラシヤンティさんに出会い、そして津村和泉さんのピアノ演奏のお誘いを受け、只何となく参加しただけでした。津村さんのピアノ演奏は綺麗な音色でした。しかし、演奏が始まったばかりなのに、驚いた事に涙が流れ落ちそうになりました。アレッ？！心が、魂が、感覚が、感じる前にです。



頭が「素敵な演奏」「上手い」とか「感激した」となるその前に、つまり演奏がスタートして未だ僅かしか経過していないのに、涙が溢れそうになりました。

訳が解らない！一体これは何？？？

特に、ピアノ演奏に期待した訳でもなく、ただ何となくこの場に座っただけなのに！急いでバッグの中のハンカチを握り締め、涙がこぼれ落ちるのを必死で我慢していました。感動する前に涙が溢れ出る！！「こんな事ってありえない！！」なんていう現象なんでしょう！！そして涙をこらえた前半が終わりしました。

もう、後半の曲からは大変！！！更に大きくなった波動の渦？に巻き込まれ、前半よりも更に涙をこらえる事に全力を注ぎました。一度涙が流れ出すと、堰を切って止まらない事はわかっています。必死の思いで涙をこらえていましたが、最後はどうとう溢れ出てハンカチのお世話になりました。隣の方も泣いておられました。頭で感じる前に「魂」が、細胞「DNA」が感じたのでしょうか？

普通、魂の琴線に触れる』って言うのは、感情

や頭も同時に感じるものだと思っていました。何か響く（感じる）ものを自覚してこそ涙が出るのだと。しかし、津村さんの演奏は違っていました。感情や頭で感じる前に先に涙に繋がったのです。それは、怒濤のように打ち寄せる涙でしたので、全力で我慢していなければ、きつと大量だったと思います。

432Hzに調律されたピアノと、津村和泉さんのとても透明度の高い純粋な心と、高い技術を伴った演奏は、最高のスピードで私の体に反応しました。とにかく、こんな不思議な体験は初めてです。凄いです。

中健次郎先生の氣功講習

池田 峰子

私は昨今、時代変化等による自己変容及び開発の必要性、年齢からの体力低下等を感じていまして、サラシヤンティで開催されたH29年9月23日に、始めて中健次郎先生の氣功講習に参加しました。



その講習を受けての帰宅後、長年の胃腸不調が明らかにやや改善されているのを感じ、その後、講習会で購入したDVD「病気が治る 氣功入門」を、日々怠けたい気持ちを抑え、なるべく1日1回はやるように心がけています。そういたしましたところ、明らかに以前より体力が少しずつですが、増

している効果を実感しています。

私にはとてもアバウトに思えた達磨静座法の印の結び方及び疎通経絡保健功の叩く（えっ、叩くのでほんとに効用があるの？）と思っておりました。等の動作で明らかに何かのからだの変化を感じます。人間のからだの不思議さを実感し、自分の思い込みを日々反省しているところです。

今まで興味の無く、私には合わないと思っていた氣功でしたが、本当に先生の氣功（氣功は中先生しか受けたことがないのですが）は今までに他のエクササイズで体感したものと違って、本当に不思議……の一言につきます。

昨今メディアからの情報等から思い描いていた中国に対する思い込みを氷解させつつ、中国にはこんなすばらしいものが存在していたのだと興味津々、感謝の今日この頃です。

又、人の老い、終わりについていろいろ考えたりしていますが、中先生の氣功のお師匠さん達は100歳以上でも元気で、毎日元氣だったとお師匠さんは1、2日間軽い風邪の後そのままの世へ旅立たれたという中先生の話を聞き、とにかく理想的なああの世への旅立ちの可能性を秘めているすばらしい氣功を学ばない手はないと考えている次第です。

氣を抜く、氣の流れを良くする等、私にはなかなか体得できませんが、価値観の多様化、時代進歩の激しい現代人へこの氣功はどこからか中先生を通して世に送られてきた、必要な一つのギフトかもしれない等と考えたりしています。

中先生が講習の最後の方でいつも披露してくれるヒーリングでの(定番の水晶等ではなく)水牛、隕石のヒーリンググッズも購入して自分のからだに当ててみると、他のグッズとは違うエネルギーがからだに及ぼされるのを実感し、全く不思議!、不思議!の気持ちです。

今は、全く不思議、不思議の思いで、場の変化の激しい昨今の日々ゆえ、とにかく今の私に体得できるところまでは体得しなければと思いつつ、中先生の気功講習、DVDに取り組んでいる日々です。

私を支えてくれた リラックス気功

神崎 千晴

気功を初めて体験した日のことを、今でも思い出します。その頃、体調を崩し自分に合った健康法を摸索していた私は、偶然にもリラックス気功の存在を知り、その門をたたきました。浅郷先生に初めて気功



を教えてくださいながら、ここだよと辿り着いた!と喜び、ほっと安堵したことを覚えています。あれから、三年半が経ちました。

筋肉量アップが健康づくりにだと思っていた私にとつて、心地よく体が緩んでいく気功はとて新鮮でした。それは幼い頃からずっと待ち望んでいた感覚のようで、説明がたい嬉しい涙が溢れるという経験を初めてしました。気功は優しいものなんだなあと感じました。物事の受け取りが楽になったのも、こうして穏やかな気持ちに切り替わ

る瞬間が積み重なり助けとなって、今に繋がっているのではないかと思えます。リラックス気功は私にとつて、心と体の感覚に素直になれる、自分をさげ出す事ができる大切な場になっていきました。いつも帰り道の足取りは軽く、来週が待ち遠しく感じられ、そこにはメキメキと元氣を取り戻していく自分がいました。

それは浅郷先生が伝えてくださる、目の前の世界がひらかれるような、温かく力強い言葉が、私の心と身体に染みわたるようにして、生きる力になったのだと感じています。

私は気功からたくさんのお話を教えてもらいました。一番は自分の体感を信じて良いということ。

それは自分の感情を素直に受け取る力にも繋がります、今の私を支えてくれる源になっています。

振り返ると全ては、温かく見守り、情熱を持って教えて下さった浅郷先生との出逢いから始まりました。頂いたご縁に感謝し、これからも日々気功に親しみ、伝承して下さった老師方に思いを馳せ、微笑みながら生きて行きたいと思えます。

サラシャントーニモクラスに参加して

西山 路子

ポートアイランドにあるアシックススタジオでヨガを習っているときにそれは始まりました。おうちが気持ちいいか、やりやすいかを感じて



photo.jp - 24780751

ところがこれが難しい。今までやりなさいと言われたことを、何も考えないでただ一生懸命その教えに沿うよう頑張っていたので、やりやすい方?「やりにくい方?」そんなんわからへんわ」というのが正直でした。實際体を動かすことで、やりやすい方、やりにくい方があることすら気づかずに体を動かしてきました。そういえば、今日はここのほうが楽かな?」と気づくようになったのは最近かもしれません。

さらに一の軸 二の軸 三の軸 何ですか?それは「身体の中にな、三本の軸を描いて、動かすときは一から順番に二、三と動かしましょう。今こそテレビなどで体幹という言葉が聞くようになりましたが、姿勢が始まったころは初めて聞くくらいに感覚でした。その体幹を崩さないで二、三と順番を守って身体を動かしていくのです。

先生はいつも同じことを言い続けていると思うのですが、やっている本人は今日初めて気づきましたということがあります。

10年同じことをやって今日初めて「ああ、これか!」と気づくこともたくさんあります。先生は毎回同じことをまるで初めて言いましたというように淡々と繰り返されます。毎回同じことを聞いているだろう我々も、またかではなく本心から初めて聞きました顔で「ふんふん」とうなずいて

います。

たぶんこれからますます初めて聞きました」感が強くなるかもしれません(笑)、クラスのみなさんが続いているということはそれなりに年齢も高くなつてくるということですが、私たちのクラスもそれなりに人生経験豊かな方々ばかりで楽しんでいきます。年を重ねるということはまあ若くないということでもある訳で、10年前とは身体の動きが変わってきます。

自分では気が付かないうちにしなやかさもなくなつてくるし、バランスも悪くなつてくるし、物覚えも悪くなつてくるし…この先いいことはないのでしょうか？

そんなことはないはずですよ。なぜかって 楽しく姿勢体操ができていますのだから。みなさん本当に長く続けられています。もう生活の一部になっているのでやめられないそうです。継続は力なりという言葉はまったくその通りで、続けていると見えてくるものもあり、細く長く続けることでどんな身体も変わってくるものだ実感しています。

初めてクラスに入つてこられた方は身体の芯が定まらなくて、なんとなく頼りない身体付きに見えますが、わからないままでも続けて1年くらいたつと、なんと芯がしっかり身体の中に通つているように見えてきます。

自分では気が付かないことですが、どの方もそんな身体つきになっていくから不思議です。

もしかしたら、ビシバシ身体を動かすのが好きな方には姿勢は物足りないと感じるかもしれません。仰臥位や伏臥位でも多々あります。ところが身体の芯を意識しながら、しっかりと軸から身体を動かすと、かなり省エネの動きでも身体がホカホカしてきます。

バンバン身体を動かさなくても、筋肉をしつかり使うことができるのが長続きのポイントかもしれせん。

三宅クラスに参加して、出たりはいたりしながらすでに20年以上、姿勢クラスだけでもゆうに10年はすぎました。三宅クラスの特徴はひとつひとつの動きに入る前になぜこの動きをするのか？という丁寧な説明が入ることではないかと思つています。この説明があるのとないのでは身体の動かし方に微妙な影響があります。

自分も人の前に立つて姿勢体操を教えたことがあり、先生の受け売りでやってみましたが、所詮受け売りは受け売り、続くものではありません(勉強不足ということですが)こんな丁寧な説明が入るクラスはあまり知りません。お陰様で骨や筋肉に関する名称をたくさん覚えることができました。

一番初めに覚えたのは確か「天転子」という骨よく出てきました。これが三宅クラスの特徴で生徒さんが何となくでも納得できているのではないのでしょうか？私たちが辞めることなく、肅々と続く理由はもしかしたらそんなところにあるのかもかもしれせん。

編集後記

新しい年を迎えますが、地球上では災害、戦争、事件、事故が絶えることはないようです。

近隣の北朝鮮がミサイルを飛ばす実験をやめず、そのためこの国の政府は超高額な固定の迎撃ミサイル装置を買うことに決めたようです。買うと決まった後、ミサイルが飛んでこなくなつたように思います。そして、この装置は建設に時間がかかり、5年ぐらいしないと使えないそうです！

よその国の首都をどこにするかを他の国の人が決められるとは思いませんでしたが、実際にそういうことがおき、大きな波紋を起しています。いくらでも喧嘩の種があるのだなと感心してしまいます。その為に、爆弾を打ちこまれて穏やかな生活が送れなくなる人々のことに思いがいたらないのでしょうか？

眼に見えるぐらい低いところを飛ぶ大型ヘリコプターから窓が落ちてくるというのは、想像するさへ恐ろしいことです。でも、こういうことがあつても政府が抗議することもできないのが、日米地位協定というもので、これがあがり、米軍基地内は治外法権で政府は何もいえないと聞きました。戦後70年以上たつても、戦争に負けたということは終わっていないのです。

今の自分には眼の前の用事をこなし、できるだけ、笑顔が多くなるような生活をするくらいしかできません。世界中でおきている人々の役に立つ発見、技術の本当の進歩、そこそこおきる人間の暖かい交流などを見聞きし、あるいは自分が誰かと暖かい交流ができたことなどを楽しみに、またこの一年を機嫌よく過ごして行きたいものです。

